

4/13(日)告示 14(月)投票開始  
**激戦の糸魚川市議会議員選挙**

**松田のりひこ**さん **連日大奮闘中**

津波被害危険地帯に子育て支援施設を建てるのか、糸魚川総合病院を守れるのかなどが争点になっている糸魚川市議選が、いよいよ告示されます。

日本共産党の松田のりひこさんは、毎朝交差点に立ち、行き交うクルマや行人にあいさつしながら政策を訴えています。また、市民一人ひとりの暮らしの様子と願いを丹念に聞き取り、政策に活かす活動を進めています。



糸魚川市では、市長選挙も同時に戦われ、市議選と同様の点が争点になっています。その一つが、前市長が推し進めてきた「子育て支援施設」の建設です。この施設は膨大な予算がすぎ込まれる計画であるほか、建設予定地が海岸に近い津波浸水危険地域であることから、「危険なところに子どもの施設をつくるのか」が問われています。

また、市民の命と健康を守る砦になっているにもかかわらず、膨大な赤字になっている厚生連糸魚川総合病院をどう守るのかも争点です。この点では、「県が進める地域医療構想こそ、糸魚川総合病院をつぶす元凶の計画だ」と毅然とした姿勢を示している日本共産党の松田のりひこさんに期待が集まっています。

そのほか、松田さんは学校給食費の無料化などの子育て支援政策でも期待されています。

**日本共産党上越市議員団ニュース**

No.867 2025年4月13日

連 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
 絡 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
 先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))  
 ホームページ <https://jcpjoetsugiindan.webnode.jp/>

**期待は高けれど…支持約束が足りません**

糸魚川市にお知り合いがいらっしゃる方、ぜひ「松田を頼む」「ホントに信頼できる人」と、たくさんの方に支持をお願いしてください。

**「収支改善してから改築の設計を始めるが、収支によって設計は変わらない」**

**センター病院の改築問題 (平良木議員の一般質問)**

**意味不明な答弁に終始**

**地域医療守れ**

平良木哲也議員は、地域の医療提供体制について、しの考えをたどりました。

最初に、県が進めている地域医療構想について、「身近な病院を潰巢計画ではないか」と問うと、市長は「限られた医療資源の活用が肝要である」と答えました。これは、医師・看護師の不足を打開使用とはしない姿勢です。

そこで、平良木議員が「なぜ医師・看護師を確保する努力をしないのか」と問うと、市長は、「医師を増やす方策も成果を出しつつある」と答えました。そのため、「何年後に何人ぐらいまで増やすのか」とたずねると、「具体的な数値目標等は持っていない」と答弁する始末です。

平良木議員はこれに対して、「目標を持たないのでは希望でしかない。OECD諸国並みに増やす必要があるのではないか」と指摘しました。

これに対して市長は、「私たちとしては地道に増やして

いきたい」と曖昧な答弁を繰り返しました。

医師・看護師不足の大元は、国による医療費削減政策です。国の政策を鵜呑みにして、国や県の言いなりになるようでは、自治体とは言えません。

**センター病院の改築急げ**

老朽化が限界に達しているセンター病院の改築は、「25年度は収支の改善に取り組み、収支が改善されてから設計を始める」というのが、市の方針です。

そこで平良木議員は、「病院の収支改善で設計は変わるのか」とたどりました。

これに対して市は、「収支改善と設計内容は関係ない。しかし、赤字を減らしてから改築が最善だと思う」と、答弁は意味不明です。

平良木議員が「矛盾しているのではないか」とたどしても、「矛盾はそちらの考え。今年度は準備期間だ」として、考えを改めませんでした。

**橋爪議員が13冊目のエッセー集を発刊**

**「とちやの風」**アマゾンで税込み1,590円  
 問合せは橋爪 (電話は左下) へ

橋爪議員は、日頃の出来事を書き綴った作品をまとめた13冊目のエッセー集をこのほど上梓しました。

今回は、先頃亡くなったお母さんとの思い出が綴られています。自作のイラスト入りです。

